

松浦機械でシンポジウムを開催



金属光造形複合加工医療機器フォーラム(会長=小田豊 東京医科歯科大学教授)は6月23日、東京都大田区の松浦機械製作所東京フォーラムセンターで第2回シンポジウムを開催した。大学研究者や歯科医師など50人が参加した。

フォーラムは、松浦機械製作所が開発した金属光造形複合加工機「LUMEX」の積層造形と高速加工のハイブリッド技術を、医療や医療機器の分野に応用すべく立ち上げられたもの。

今回のメインテーマは、義歯など「歯科補綴(ほてつ)物」の製作。金属積層造形機のマーケットリーダーであるドイツEOS社の「EOSINT」と、医療分野への応用事例を、日本総代理のNTTデータエンジニアリングシステムズが紹介。試作のためのラピットプロトタイピング(RP)と呼ばれていた装置が、最終製品製造のツールとして認識されつつある現況が報告された。そのほか、東京医科歯科大学の野村直之准教授による研究発表などがされた。